



写真① 西尾(尋常)小学校運動会風景(大正11年10月)

市史編さんの現場から

モノクロの中の西尾

近・現代部会 調査員

野呂 あづさ

私が最近、取り組んでいる仕事は、資料館に保存されている明治・大正から昭和四十年代頃までのモノクロ(白黒)写真を整理し、デジタル化することです。デジタル化することの利点は、保存はもちろんですが、キーワードで欲しい写真が検索できるようになることがとても大きいです。

台紙に貼られ、コメントが書かれていたり写真や、アルバムに収められている写真、束になって保管されているものなど、八百枚近くの写真をスキャニングしてデジタルデータにし、一つ一つに番号とタイトルを付けていきます。コメントが書かれていたり写真はよいのですが、時代や、何を行っているところなのか、西尾市内のことのか不明な写真も数多くあります。そういう場合は、市史編さん室にある資料から、同じような写真がないか、調べて確認します。

モノクロ写真の整理作業を始めて少し経ち、車での通勤途中や散歩中に西尾の街並みを見ていると、ふつとモノクロの風景にすり替わる感覚が起きるようにな

りました。道路では、未舗装の道をタール舗装しているモノクロの風景と人々。小学校近くを通る時には、大正時代の少女達が運動場を行進する姿。横断歩道では登校中の児童とお母さん交通指導員。整理しているモノクロ写真の中の人物が動きまして目の前を通り過ぎ、まるで同じ空間に一緒に存在しているような不思議な感覚です。

こんな感覚になるのはきっかけがあつたように思います。それは、整理作業していたある日、市史編さん室にたまたま用事で訪れた職員が整理中の写真に見入つており、「あつ、この写真は私の祖父母の結婚式の時の写真だよ。こんなところに残されているなんて驚いた」と言つてモノクロの一枚を示してくれました。その場にいた皆がその写真を覗き込み、その偶然に驚き、話が盛り上がりました。この時、私は衝撃を受けたのと同時に、写真に写る人々や風景を身近に捉え始めたように思います。この写真は、私達の「今」につながっているのだと。

ここで、私が気になつたモノクロ写真の一部を紹介したいと思います。

写真① 西尾(尋常)小学校運動会風景(大正十一年十月)

行進する少女達の緊張が伝わって

くる一枚です。運動会は明治七年、海軍兵学校で「競闘遊戯会」として行われたのが始まりとされ、明治十八年に初代文部大臣に就任した森有礼が体育による集団訓練を推奨してからは小学校にも広まりました。大正時代には運動場の整備も進み、訓練的種目の兵式体操や旗取りなどから、娛樂的種目の遊戯や競争競技、棒倒し、騎馬戦が盛んになりました。

写真② 県下初のお母さん交通指導員(昭和三十八年二月)

お母さん交通指導員が登場する背景には、交通事故件数の急増が挙げられます。昭和三十年代に入り、自動車交通は急成長期を迎え、三十四年には交通事故死亡者数が一万人となりました。日清戦争での戦死者数を上回る勢いで増加したため、「交通戦争」と呼ばれる状況になりました。そんな中、誕生した交通指導員は、子ども達の命を守るために、令和の今も活躍しています。

これらのモノクロ写真から、ここ西尾の地に生活した人々の姿がとても身近に感じられます。『新編西尾市史 資料編5 近現代』ではどんな写真が掲載されるのか楽しみにしていて下さい。



写真② 県下初のお母さん交通指導員(昭和38年2月)



写真③ 三間通りの道路タール舗装工事 吾妻町(昭和20年代頃か)

こちら 自然部会です。

自然部会 編集委員
増田 元保

自然部会では、平成二十六年度から、市内の動植物や地質、気象などの自然分野の調査に取り組んできました。調査もようやく最終年度を迎えた。昨年十月の部会では、『別編2 自然』の編集方針や執筆分担が決定しました。今後はいよいよ令和六年春の刊行に向けて、原稿の執筆を進めて行くことになります。

さて自然部会の調査では、実際に野や山、海、川などに出かけることが基本となります。分野によつてはサンプルとなる生物などを収集し、詳細な観察により種を同定します。しかし、広大で多様な地形を持つ西尾市全域を調べ尽くすことは容易ではなく、特に私の担当する海水魚では、ほぼ不可能です。このため、今年度に新たな調査方法を二つ取り入れました。

一つ目は、東幡豆漁業協同組合さんに協力頂き、底引き網漁にかかった魚種を調べるという方法です。八月～十月に三回実施し、合計六〇種類の魚を確認することができました。ただし、これは

三河湾内に生息すると予想される種の半分程度に過ぎません。季節や海域、水深などの条件で捕獲できる魚が異なるため、底引き網だけですべての種を捉えるのは難しいのです。

こうした点を補完するために導入したのが、環境DNAの分析による方法です。生物は絶えず周囲の環境(空気や水、土壤)に排泄物や皮膚片、体液などを排出しています。こうしたものに含まれるDNAが、海や川の水、海底や川底の泥や砂に蓄積されており、これを解析することで、生息する生物の種類を知ることができます。今回は調査会社に委託して、三河川(小野ヶ谷川・矢作古川・須美川)と三河湾二か所(寺部町海岸・三河湾内の水を採取し、環境DNAの網羅的解析をしてもらいました。その結果、寺部海岸で三三種、湾内で二四種、矢作古川で五九種、須美川で三五種、小野ヶ谷川で二九種のDNAが検出されました。

しかし、この結果がそのまま使えるわけではなさそうです。海産魚では、メバルやソイなどの近縁種は、解析するDNAの領域が一致してしまった場合もあり、予想よりも種類が少ない結果となりました。一方、河川ではマダイやマイワシ、サンマなどの海水魚のDNAも検出されました。予想はしていましたが、これは流域の家庭排水(晩御飯のおかずなど)が流れ込んでいるためだと思われます。したがつて、この結果を、実際の漁獲物調査や魚の

分布域とも比較して、精査する必要がありそうです。

『別編2 自然』は、こうした様々な調査成果を踏まえて、現在の西尾市の自然環境の実像をとらえ、市民の自然への関心を高められるような市史を目指しています。どうぞご期待ください。



東幡豆漁業協同組合から届いた魚。観察して魚種を調べます。あなたはいくつわかりますか？

市史編さんの現場から

進め調査隊 金石文を探せ！

進んじやいけない道もあるの巻

市史編さん室

脇田小百合

市内の近世キンセキ金石文を調査せよ、との指令を受けたのは夏の初めでした。

金石文とは紙や布に筆で残された文字資料に対して、石や金属などの素材に刻まれた文字を指します。墓石や石碑、梵鐘など屋外で長い年月風雨に曝されていると摩耗し、いずれ消滅してしまいます。今のうちに優れた資料を探し出して記録を残すべく、まずは下調べのローリング調査（その名もしらみつぶし大作戦！）が行われることになつたのです。

調査対象は市内全域、国土地理院発行の二万五千分の一の地形図に載つてている寺院・墓地・神社マークを全て調査すべしとの命。因みに寺社数は西尾地区二六八、吉良地区九六、一色地区七五、幡豆地区五八と合わせてなんと四九七か所にも上ります。途方に暮れながらも担当学芸員と近くの寺を巡り、レクチャーを受けた際、初めて享保時代（一七六〇三六）の金石文を目にしてしました。内容は難しくてよく分からなかつたのですが、墓碑にびつりと刻みこまれた文字を見ると先人の思いが聞こえてくる気がして、不安より使命感が

沸き上がってきたのです。程なく「私このお寺に行つてみたい」「私はこの辺に興味があつて」などと地形図上で陣地取り合戦が勃発！好奇心旺盛な我ら調査隊はこうして散り散りに走り始めたのでした。

さて、実際動き始めるとマークだけではなかなか見つけられない小さな寺社はあるし、逆に車を走らせていると地図にはない墓地や石碑が目に付きキヨロキヨロし通しです。意外に江戸時代のお墓がたくさん残っているのに驚き（ほとんどが建立年や戒名のみで対象外のですが）、故人の生い立ちや功績、辞世の句らしきものや絵が刻まれた碑もあります。自分なら何を刻むだろうか？何を願うだろうか？などと高尚なことを考えながらふと気が付くと、足の先から太ももにまでひつつき虫がみつかり付いていてビックリ！なんてことも。

そして某神社を調査している、ある夏の日のこと。奥の小さな摂社を隈なく見回していると、突然然後ろから大きな声がかかりました。

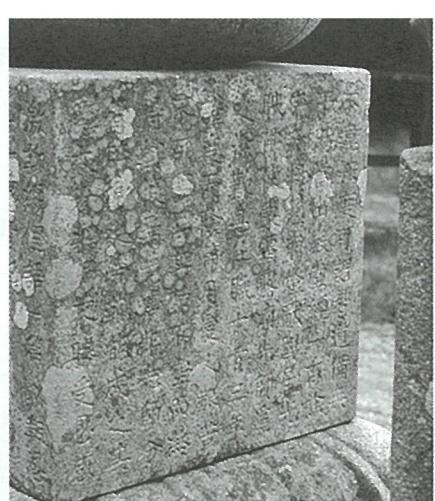
「はーい、どうかしましたかー」驚いて振り向くと、なんと警察官ではありませんか。一瞬言葉を選んでいると、彼の視線は私を通り越して鍵のついた賽銭箱に。や、これは賽銭ドロボー疑いか！

「実は、こんな江戸時代の文字を探していくまして

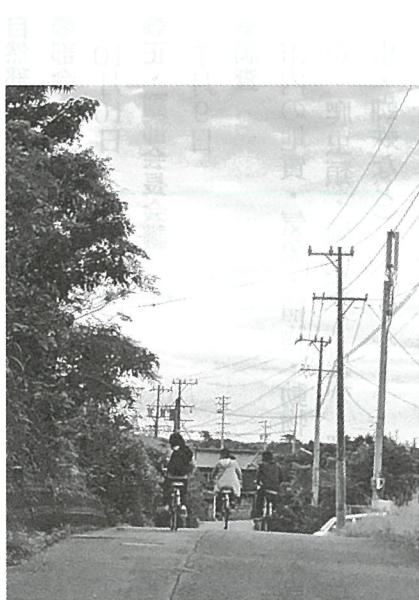
…」と鳥居に刻まれていた「元文三年」の文字を指して弁明。警察官は「こんな真昼間からそれはないかなって思つたんですけどねー」とにこやかして細い山道を入つて行きました。

一件目の目的地には無事たどり着けたものの、次の地点に向かう途中で岐路に遭遇、薄暗い森の中ですっかり方向を見失つてしましました。

観光マップを広げ直し、野生のカンを頼りに選んだ道は怪しげなガタガタ道でした。ここさえ通



佐久島で見つけた寛政8(1796)年の金石文。「不違法度可謂智道備矣…」とある。



り抜ければ早道のはず、と決死の覚悟でハンドルを握りしめ、急な坂道を下つていった先に現われたのは車幅ギリギリの土手。そしてその先是さらに狭く、車は通れない事が判明…。

クラクラしながら渡りかけた土手をバックで何とか脱出、胸を撫でおろしたのも束の間、敷地が狭くてなかなかUターンできません。

前夜の雨のせいで前輪はぬかるみに、後輪は積もつた落葉で滑り、遂には空回りして全く動かなくなつてしましました。もはやこれまで。

猛省しつつ仲間に連絡すると、その後の対応の早かつたこと！正確な位置も伝えられなかつたのにも関わらず、速攻でレンタサイクルを借りて飛んで来てくれました。島内で古墳を発掘中の男性学芸員も駆けつけてくれ、的確な指示と怪力のおかげで生還できました。

先を競つて自転車を漕いでゆく無邪気なヒーローたち。私の佐久島の風景には、車の中からみた彼らの後姿が眩しく刻まれたのです。

主な活動記録

近世部会／学芸・文化部会

- 「資料編3 近世1」の編集・刊行
- 「資料編4 近世2」掲載資料の選定

- 「金石文調査（4頁参照）」のべ52回

（令和3年4月～令和4年1月現在）

編さん委員会 3年4月（書面表決）

編集委員会 3年6月5日（リモート）・
4年1月7日（同）

考古部会

●「通史編1 原始・古代・中世」の執筆・編集・
追加遺物調査など

原稿検討会

7月4日（中世以前の矢作川と道検討会）

古代・中世部会

●「通史編1 原始・古代・中世」の執筆・編集
●原稿検討会（中世・リモート）

4月10・17日・5月15・22・30日・6月13・
20・27日・7月4日・8月4・21日

近現代部会

●部会
12月4日～2月27日 刊行記念特別展「江戸時代の西尾」（於岩瀬文庫）

関連行事

●翻刻
4月～1月 のべ24回 花岳寺文書（吉良町）・稻吉家文書（下羽角町）・瀬門神社文書（吉良町）

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| ●調査 | 8月24日 国立国会図書館ブランゲ文庫（東京都） |
| 10月3日 宝篋印塔（浜松市天竜区） | 8月31日・11月5日 愛知県公文書館（名古屋市） |
| 12月11・12日 京都市内 通史編用写真撮影 | ●寄託・寄贈文書近代写真整理（1頁参照） |
| 1月28日 天竜寺・臨川寺（京都市） | 4月～1月 のべ119回 |
- 近代新聞（「新愛知」）調査
のべ17回 名古屋市鶴舞中央図書館

自然部会

10月10日 (リモート)

正・副部会長会議

7月9日

調査

市内の地質・気象・植物・動物（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・軟体動物・昆蟲・蜘蛛など）

4月～1月 のべ132回

環境DNA分析調査 (3頁参照)

三河湾漁獲調査 (同)

8月～10月 3回 東幡豆漁業協同組合協力

美術工芸・建造物部会

4月20日 岡崎市美術博物館 工芸

4月30日 浄念寺(平口町)・宿縁寺(西浅井町)

・瑞玄寺(八ツ面町) 絵画

6月17日 宿縁寺(西浅井町) 建造物

7月6日 個人蔵 工芸

7月17日 最厳律寺(平原町) 彫刻

10月30日・11月12日 長圓寺(貝吹町) 工芸

12月23日 個人蔵絵画

1月9日 淨名寺(徳永町) 彫刻

1月11日 太山寺(寺部町) 彫刻

1月16日 聖運寺(中町)・養国寺(寺津町)

・永覚寺(寄住町)・正念寺(上町)

絵画

新編 西尾市史だより

民俗部会

民俗部会

7月7日・10月6日・11月17日・12月8日

調査

・瀬門神社馬駆神事 花笠づくり調査

・伝統工芸品「吉良の赤馬」調査

・三河万歳調査

・三河木綿調査

・下羽角町虚空蔵菩薩調査

・災害碑悉皆調査

・旧糟谷邸民具調査 など

4月～1月 のべ180回

【主な展示品】

会期 12月4日～2月27日
会場 西尾市岩瀬文庫 2階企画展示室

松平乗全像(江戸時代後期/盛巣寺蔵)、小牧陣屋鳥瞰図(昭和二(一九二七)年/小牧村文書)、三州幡豆郡吉良庄西尾城之図(元治元(一八六四)年/個人蔵)、「西尾八景」(弘化三(一八四六)年頃刊/岩瀬文庫蔵)、義倉米引換札(江戸時代後期/明治時代/義倉会資料)ほか

調査にご協力いただいた皆さま、
情報をお寄せいただいた方々へ
心より感謝を申し上げます。



浄名寺彫刻調査

『新編西尾市史 資料編3 近世1』
刊行記念行事

会場	西尾市岩瀬文庫 地階研修ホール
日時	1月22日 午前と午後
会場	

特別展関連行事 古文書講座 「江戸時代の西尾の古文書を読んでみよう」

「義倉会資料」から二点の古文書を課題資料とし、くずし字の解説を解説。合わせて西尾の義倉会についても解説しました。



岩瀬文庫特別展のようす

『新編西尾市史 資料編3 近世1』を 刊行しました

『新編西尾市史』の第3冊目となる『資料編3 近世1』を刊行しました。関ヶ原の戦い（一六〇〇年）から廢藩置県（一八七一年）頃にいたる西尾市域の歴史について、領主支配や町域に住む人々、商工業および寺社と文化に関連するものの中から史料を厳選し、活字化しました。

A5判 □絵付 790頁

本文収録CD-ROMと

元治元（一八六四）年「三州幡豆郡
吉良庄西尾城之図」複製(B2判)付

4000円

展示解説

①12月25日 ②1月8日

会場

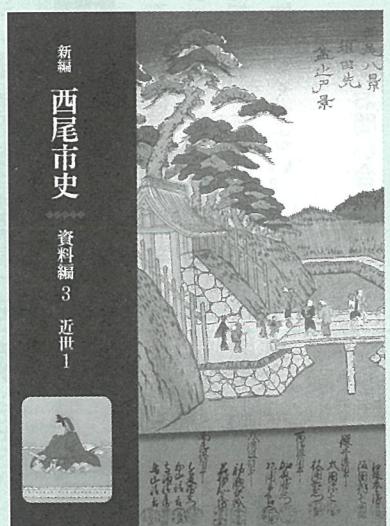
西尾市岩瀬文庫 地階研修ホール

- 付録の「三州幡豆郡吉良庄西尾城之図」は、才モテ面に複製図版を、ウラ面に地名・人名などの墨書きを活字化したトレース図を掲載。
- 絵には代表的な収載史料や、関連する資料写真を解説文とともに掲載。通覧することで史料本文をより読解しやすくなります。
- 付録CD-ROMは全文検索が可能。

気になるワードを検索できます。

各章冒頭の解説文では、掲載史料を丁寧に解説。史料本文の読解を助けます。

西尾藩の儒学者井川春良の漢詩文集『兼山詩文』を、書き下し文と丁寧な注釈とともに掲載。古文書の少ない十七世紀の西尾地域を知るために貴重なもので、武士・町人・寺社などを格調高い文章で表現しています。





刊行物△」案内

刊行予定 『新編西尾市史研究』第八号

A4判 令和四年四月刊行予定

市史編さんの過程の調査・研究の成果をいち早くご紹介します。

(内容) 「播豆郡家の所在について」「日本中世禪僧の塔銘」「県文化財・願成寺蔵「円光禪師可庵和尚塔銘牌」の分析」「幡豆郡寄近村高橋仙溪記録について」「西尾藩の独札医師」「愛知県の採藻漁業の変遷」「特に緑藻アオサ類、褐藻サガラメと紅藻シキンノリの状況」「枯木宮貝塚昭和四十八年調査出土骨角器について」「佐久島に分布する師崎層群日間賀層より産する生痕化石」「災害とくらし—西尾における災害碑等の悉皆調査より—(承前)」(予定)

既刊 『新編西尾市史研究』第四号

A4判 120頁 700円

既刊 『新編西尾市史研究』第三号

A4判 110頁 700円

既刊 『新編西尾市史研究』第二号

A4判 76頁 500円(残部僅少)

既刊 『新編西尾市史 資料編3 近世1』

A5判 790頁 モノクロ カラー口絵付
本文収録CD-ROMと元治元(1864)

年「三州幡豆郡吉良庄西尾城之図」複製(B)

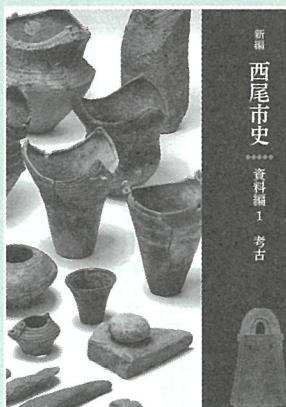
2判)付 4000円

くわしくは7頁をご覧ください。

既刊 『新編西尾市史 資料編1 考古』

A4判 790頁 オールカラー

西尾市の遺跡位置図付 5000円



資料や情報ををお待ちしています。

西尾市史編さんに役立ちそうな資料(古文書や市内で刊行された古い出版物など)や情報がありましたら、ぜひ市史編さん室へお知らせください。

担当・お問い合わせ

西尾市教育委員会文化財課市史編さん室

〒四四五一〇八四七

西尾市亀沢町四八〇 西尾市岩瀬文庫内

TEL ○五六三一五六一八七一

FAX ○五六三一五六一七八七

E-mail shishi@city.nishio.lg.jp

新編 西尾市史だより第八号

令和4年2月15日発行

既刊	『新編西尾市史研究』第七号	A4判	122頁	700円
既刊	『新編西尾市史研究』第六号	A4判	146頁	700円
既刊	『新編西尾市史研究』第五号	A4判	90頁	500円